

学校法人常磐大学 広報誌 TOKIWA POST [トボス]

Topos

vol.79

July. 2016

「特集」
社会とつながる
実感をもって学ぶ



社会とつながる 実感をもって学ぶ



社会とつながる実感をもって学ぶ

CASE : 01

梅酒開発プロジェクト

常磐大学

DATE : 2015.5 --- 2016.3

学生と企業、地域が一体となって 新しい味わいの梅酒が生まれました。

梅酒開発プロジェクトは、水戸の象徴である梅を、観賞だけでなく味覚としてPRし、地域の活性化につなげることが目的です。キャンパス内で収穫した梅の実を使用し、水戸市内の酒蔵 明利酒類株式会社との連携のもとで誕生した「本格梅酒梅香 Princess Tokiwa」は、明利酒類の「梅酒と酒の資料館 別春館」と京成百貨店で販売されているほか、3月4日～6日、偕楽園内で開催された「水戸の梅まつり・第4回全国梅酒まつりin水戸」にも出品しました。当日は、本学の学生が運営スタッフとして参加し、場内の案内や試飲係などを担当しました。爽やかな梅の香りが楽しめる、と来場者からの反応も上々で、さまざまな課題を乗り越えてきた学生にとって、得るものの多いプロジェクトになりました。



「Princess Tokiwa」に使われた梅の木の前で。

本学は、社会とのつながりを実感できる学びを大切にしています。社会と接しながら、課題と向き合う中で自分の力を試し、その取り組みを通して、世の中の役に立つ手応えを確かめる。こうしたプロジェクト型や体験型の学びは、学生や生徒の持っている力を引き出し、大きな成長をもたらします。今回の特集では、地域をフィールドにした実践的な学びの例と学生たちの生き生きとした表情をご紹介します。

プロジェクトに参加して



小野 裕子

人間科学部 健康栄養学科3年
● 梅の実の収穫と梅酒の広報担当

梅の収穫は、万一キズが付くと梅酒が濁るため、慎重に手摘みしました。私たちは、広報も担当し、記者会見とラジオ番組でのPRを行いました。記者会見には、想定問答をつくって臨みましたが、明利酒類の方が質問以上の回答をされているのを見て、社会人のすごさを実感しました。「FMはるるん」では、梅酒まつりの来場者の声も届けることができて良かったと思います。



飯塚 美伶

国際学部 経営学科3年
● 試飲会と梅酒まつり運営サポート担当

商品開発では試作品の梅酒とパッケージデザインの選定に携わり、学科で学んできたマーケティングの視点を生かして、ターゲットは誰かを第一に考えました。梅酒まつりでは主催者や関係者から「成功したのは常磐大学の学生のおかげ」と評価していただいたことも励みになります。今後も、自分たちが何ができるか考え、主体的に地域とかかわっていきたいと思います。



野村 郁花

コミュニティ振興学部 地域政策学科3年
● 梅酒まつり運営サポート担当

梅酒まつりでは多くの来場者が大学発の梅酒に興味をもって試飲して下さって、ラベルのデザイン、ネーミング、すっきりした味わいのどれも好評でした。他学科の学生や企業の方、地域の方と交流でき、商品開発がまちづくりや地域振興につながることも知りました。茨城の梅について関心が深まり、今後はゼミで「食」とまちづくりの関係を考察する予定です。

Workflow

「Princess Tokiwa」ができるまで



Phase: 2

キャンパスの梅の実を収穫

同年6月12日、よく実った梅を収穫しました。健康栄養学科の庄司教授が担当する「食品学実験」の2年生が梅にキズが付かないように、1つ1つ丁寧に手摘みしました。収穫した梅はその日のうちに明利酒類に搬送され、製造が開始されました。



Phase: 4

ラベルデザインを決定

12月から、「梅酒研究会」の富田ゼミ、村中ゼミ、元木ゼミを中心に、常磐大学内でネーミングやパッケージのニーズ調査を行い、2016年1月、ターゲットである若い女性を意識したラベルデザインが決定しました。



Phase: 6

全国梅酒まつりin水戸に出品

健康栄養学科「梅酒研究会」広報チーム、経営学科の村中ゼミ、地域政策学科の元木ゼミなどから約30人の学生が参加し、場内の案内や試飲係などを担当。「Princess Tokiwa」は多くの来場者から好評を博しました。



Phase: 1

プロジェクト立ち上げ

2015年5月19日「梅酒開発プロジェクト」を立ち上げました。人間科学部、国際学部、コミュニティ振興学部の学生約150人による「常磐大学梅酒研究会」も発足しました。



Phase: 3

試飲会を開催

試飲会は12月5日に行い、「梅酒研究会」の学生37名が参加しました。味や糖度を変えた3種類の試作から、参加した学生全員が支持した梅酒を商品化することに決定しました。



Phase: 5

新聞各社に商品を発表

大安吉日の2月18日、明利酒類株式会社にて商品発表を行いました。茨城新聞、朝日新聞、産経新聞、東京新聞など各社が取材に訪れ、健康栄養学科の「梅酒研究会」広報チームがプロジェクトの経緯や、梅酒の味わいなどをPRしました。

「Princess Tokiwa」は2月21日から、明利酒類の「梅酒と酒の資料館 別館」と水戸京成百貨店で販売。500ミリリットル900円(税別)。

常磐大学高等学校に
新たに特進選抜コースが誕生！
未来を拓く力を養成します。

グローバル化や情報化の進展によって、大学や社会においても、求められる能力・人材が急激に変化しています。常磐大学高等学校では希望の進路に合わせた「コース制」を導入し、特色ある多彩なカリキュラムを通じて、夢の実現を目指す生徒をバックアップしています。生徒の探究心を刺激する教育を展開し、「未来を拓く力」を養成して、21世紀社会に貢献する人材の育成を目指します。

地域の観光資源について学び、英語でのガイドに挑戦しました。

常磐大学高等学校では、身近な地域をフィールドにした活動によって、自ら調べ、実践し、学びとる力を育てようとしています。「外国語ボランティア活動」もそうした活動の一つ。借楽園という地域の観光資源を素材に、訪れた外国人観光客に対して英語で説明するため、歴史的な成り立ちを学び、内容を考え、実践しました。ボランティアとはいえ、伝えた内容がSNSなどを介してそのまま世界に広まる可能性もあり、生徒たちは責任と緊張感をもって取り組みました。



Phase: 2

高校にてボランティア講話

2016年2月3日、借楽園で英語によるボランティア活動を実践されている尾崎鉄也様をお招きして、注意すべき点などのアドバイスをいただきました。



Phase: 4

外国人観光客への案内ボランティア活動

3月19日～21日の3日間、外国人観光客に英語で案内をしました。次第に自信をつけ、積極的にコミュニケーションをとる姿が見られました。



社会とつながる実感をもって学ぶ

CASE: 02

外国語ボランティア活動

常磐大学高等学校

DATE: 2015.12 --- 2016.3

Workflow

外国語ボランティア活動までの流れ



Phase: 1

借楽園にて、概要を学習

2015年12月19日、市民観光ボランティアの方から借楽園の梅林の由来や千波湖を生かした借景のお話、江戸時代の庶民生活など多くのことを学びました。



Phase: 3

日本語原稿を英訳

日本語で作った原稿を、英語に翻訳しました。生徒たちは文化を翻訳するという難しい課題に直面し、試行錯誤しながら協力して取り組んでいました。

外国語ボランティア活動に参加して

児玉 椋佳 常磐大学高等学校 3年

陰と陽の世界観をどう英語で表現するか苦労しましたが、説明の内容が好評だったことは自信につながりました。半面、移動中の会話が続き、語彙力不足も痛感。説明しながら、会話し、案内する大変さを知り、もっと英語力を身に付けたいと思いました。大学でさらに英語を学び、将来に役立てたいです。



常磐短期大学
創立50周年を記念する
ロゴマーク決定。

新園長として、
より良い保育の提供を
目指します。

トキワは選べる4コースへ 希望の進路に合わせた4コース

NEW

特進選抜コース [2016年度 より導入]

真の学力を備えた人財を育成

課題探究型学習を軸とする教育活動によって、確実な知識の習得および思考力や表現力の育成を目指します。

特進コース

国公立・難関私大を目指す

国公立大学や難関私立大学現役合格を目指す「習熟度別・少人数教育」で高水準の学力を養成します。

進学コース

得意分野を徹底的に磨く

文系クラス・理系クラスに分かれ、受験に必要な教科を重点的に学習するため、得意科目で大学受験を目指す生徒に適しています。

常磐大コース

一貫校らしい教育プログラム

一貫校らしく高大連携授業などの機会が豊富です。常磐大学・常磐短期大学への進学を視野に、同じ目標を持つ仲間と学びます。

NEW 特進選抜コースのポイント

探究型学習 ～学びへの情熱を「真の学力」へ

現代社会が抱える諸問題(地域創生、環境保全など)をテーマとした問題解決型学習によって、思考力や表現力、新しい発想を生み出す創造力を育てます。活動は協同的な学習を基本とします。共同学習はコミュニケーション能力を育てることに加え、知識の確実な定着にも有効とされています。

国際教育 ～世界を見つめる視座を育てます

グローバル社会では、「英語で考えを伝える」能力が大切です。特進選抜コースでは海外研修や高大連携事業を通して、英語で自己表現する力を育てます。また、異文化との交流を通して多様な価値観の存在を認める心を養い、グローバル社会に生きる「真の国際人」を育てます。

ICT教育 ～情報リテラシーを育てます

スマートフォン・タブレット端末の普及によって、私たちの身の回りには膨大な情報が溢れています。簡単に情報が手に入る半面、必要な情報を選び取る力が求められています。生徒へのタブレット端末の貸与など、ICT教育環境を充実させ、探究型学習の中で情報を活用する力を育てます。

Fieldwork

「総合的な学習の時間」として常陸太田市でフィールドワークを実施。



4月17日・18日の2日間、常陸太田市里美地区で宿泊研修を行いました。「地域作り・医療・環境保全」というテーマで、担当者との意見交換や竹ぼうき作り、水源探索などの活動を行い、夕食後はフィールドワークで収集した情報をもとに、翌日の発表会に向けたポスター作成に取り組みました。活発に議論することで、創意工夫をこらしたポスターが完成しました。翌日の折橋コミュニティステーションでの発表会では、大勢の人の前で緊張した表情を見せつつも、堂々と発表できました。生徒は協力して課題に取り組むことの大切さを学び、貴重な体験ができました。



大澤 美咲

人間学部
コミュニケーション学科4年

作る過程で短期大学のことを調べたのですが、取り入れたい要素が多く、何をモチーフに選ぶかで苦しかったです。いままで、このようなデザインコンペで選ばれることがなかったので、連絡をいただいたときは驚きました。作ることが好きなので、この経験を励みに、将来は広告やアプリ開発などの道に進みたいと思っています。



リボンには祝福と、さらに長く歴史を紡いでほしいという願いが込められ、ハートは優しさや愛情を、カラーは明るさやパワーを表しています。

常磐短期大学が、2016年に創立50周年を迎えるにあたり、記念ロゴマークを本学関係者から募集しました。応募作から常磐短期大学生と教職員による投票によって選ばれ、常磐大学人間科学部コミュニケーション学科の大澤美咲さんの作品に決定しました。短大の始まりである裁縫教授所をイメージしたリボンのマークは、今後パンフレットや封筒、大学グッズなどに広く活用されます。



大武 茂樹 常磐大学幼稚園 園長

今年度から園長に就任しました大武です。本園は同じ法人内の常磐大学・常磐短期大学と緊密に連携しながら、恵まれた自然環境を生かして、子どもたちの生きる力の基礎を育ててきました。幼稚園の主たる目的は、知識や技能を教える教育ではなく、幼児を保護し、養育して、心身の発達を図ることにあり、そしてその子どもたちが小学校の教育にスムーズに移行できる準備をすることにあります。私たちは、こうした幼稚園の本来の役割を果たしつつ、時代に応じた教育も取り入れながら、より質の高い保育の提供を目指しています。常磐大学・常磐短期大学の「体育」「理科」「音楽」「絵画」の教育を専門とする先生が、オリジナルに開発したプログラム「わくわくチャレンジ」や、英語を母国語とする常磐大学の先生と楽しく英語を学ぶ「ハローイングリッシュ」などは、その一例です。子どもたちは友だちや先生とのかかわりの中で集団生活の基礎を学び、自然と触れ合いながら、遊びを通していろいろなことを学んでいきます。保育の正解は一つではありません。子どもたちから学ぶ姿勢を大切に、また、保護者の皆さまの声にも耳を傾け、先生方とともにこれからの保育のあり方を考えていきたいと思います。

News and Topics

学生、生徒、園児たちは日々学び、経験し、成長を続けています。
このページでは学校法人常磐大学の各学校の取り組みやイベントの様子をはじめ、
日々の活動とその成果をお知らせします。

TRICOLORの学生たちが 「大好き いばらき キャンドルナイト」に参加しました。

常磐大学・常磐短期大学TSSボランティアTRICOLORに所属する学生たちが、3月11日茨城県三の丸庁舎で行われた「大好き いばらき キャンドルナイト」の運営スタッフを務めました。このイベントは、東日本大震災復興支援として、犠牲者への追悼と家族や地域の絆への思いを次世代へと紡いでいくことを目的に、震災の翌年から毎年3月11日に実施されています。学生たちは、会場の設営、キャンドルの設置や点火、式典での司会のサポートなどを担当し、イベント進行に貢献していました。夕刻の会場には約5,000基のキャンドルが灯され、ステージではオカリナの演奏やコーラスなどが披露されて、追悼への思いを一つにしていました。「これからも被災者に寄り添うボランティアを続けていきたい」という学生の声印象的でした。

大学・短大



高校

それぞれの進路希望に合わせ 「3年生と語る会」を3回にわたって開催しました。

2015年12月16日、AO・推薦入試に合格した8人の3年生が、また、年が明けて1月20日には看護医療系に合格した10人の3年生が、さらに、3月17日には国公立大学入試に挑んだ卒業生が後輩に合格体験や受験アドバイス伝える会を行いました。語られた内容は「自分をよく分析すること」「将来について考え、本当にやりたいことを見つけること」「早めに対策を立てること」「普段の勉強の大切さ」「自分に足りないものは何かを考えて努力すること」「小論文の学習方法」「模試結果を上手に使うこと」など多岐にわたりました。先輩たちの話には「一緒に戦う仲間の大切さ」が随所に見え、2年生は大学受験が団体戦であることを再認識したことでしょう。先輩の立派な態度に刺激され、夢に挑戦する常磐生が増えることを願っています。



大学生と高校生が自ら考え、 まちづくりを実践。全国的にも珍しい、 高大官連携によるプロジェクトが始動しました。

4月27日に水戸桜ノ牧高等学校常北校で「めざせスターダム! Make up 城里 ~高大官連携プロジェクト~」全5回開催の活動を開始しました。このプロジェクトは、地域資源を活用したビジネスの実現を目的として、高校生と大学生が協働して企画立案や事業資金の調達を行い、城里町がその支援を行います。今回、常磐大学からはコミュニティ振興学部地域政策学科の砂金ゼミナールの学生8名、水戸桜ノ牧高等学校常北校からは2年生33名、城里町からは地域おこし協力隊員3名が参加しました。今年度は、特定の地域資源を対象に企画案の作成、発表、実現のための資金集めまでを行う予定です。学生たちの今後の活動にご期待ください。

大学





短大

幼児教育保育学科への入学を歓迎し、 新生歓迎交流会と新生歓迎クラスマッチを行いました。

4月7日に幼児教育保育学科の新生歓迎交流会を行いました。交流会は幼児教育保育学科の新生と2年生が全員参加し、伝言ゲームやジェスチャーゲームなど2年生が企画したゲームで交流を深めました。各教室は笑いがあふれ、明るく楽しい雰囲気でした。また、5月17日には、幼児教育保育学科の新生歓迎クラスマッチを体育館で行いました。種目は恒例の「大縄跳び」と「ドッジビー（ドッジボールとフライングディスクを合わせた競技）」。新生・在学生だけではなく先生たちも参加し、互いに親睦を深めあう楽しい時間を過ごしました。体育館には出場した6チームの声援と歓声があふれていました。



幼稚園

夏野菜とさつまいもの苗を植えました。 しっかりお世話をし収穫を待ちます。

5月11日、小雨模様の中、短大の村上先生とゼミの学生たちが、まつのこ広場の畑に野菜の苗の植え付けをしてくれました。プチトマト、ナス、ピーマン、インゲンなどの夏野菜たちがそろい、園児たちは葉っぱの形や、花の色の違いなどを観察したり、図鑑と見比べたりしました。翌日の5月12日は、野菜の間の畝に、年長組の子どもたちがさつまいもの苗植えをしました。ふかふかの畝に、太陽の方向に苗を向け、優しく土のお布団をかけてあげます。年長組では水やりや草取りの当番も決めて、大きく育つお手伝いをしっかりしていく約束をしました。生長過程を身近に見ながら、大切にお世話したいと思います。今から夏や秋の収穫が楽しみです。



智学館

春の陽気の中、第9回入学式を挙行。 翌日には生徒会の企画による 歓迎の「対面式」を行いました。

4月6日、智学館中等教育学校 第9回入学式が挙行され、春の穏やかな陽気の中で、希望に満ちた新生を迎えることができました。真新しい基準服に身を包んだ入学生を代表して、あいさつに立ったのは高野拓海くんです。「先輩たちにお世話になり、一日も早く智学館の生活になじみたい」とあいさつし、本校で大きく成長し、豊かに学ぶ決意を力強く語りました。翌7日には在校生が新生を迎え入れる「対面式」が行われ、生徒会役員が企画したゲームやクイズを行いました。初めは緊張していた新生も、徐々に表情がなごみ、一緒に楽しんでいる様子がうかがえました。日々の生活や楽しい行事を通して、智学館でのこれからの6年間を、充実したものにしていってください。



大学

経営学科の3年生たちが、 「ビジネス専門実習」の授業で 販売促進イベントを開催しました。

1月9日、10日水戸京成百貨店で、「ビジネス専門実習」の授業の一環として今年も商品販売促進イベントが行われました。企業の利益構造（ビジネスモデル）に対する理解を深め、企画力などを養うことや、売り上げに貢献することも課題の一つになっています。ゴルフウェアを紹介する「GOLF Fashion Show!」では学生たちが複数のシーンによる着こなしに挑戦し、ベビー用品を用いた「作ろう ベビー用品アレンジギフト」ではベビー用品のラッピングを工夫して、贈る人も、贈られる人も、どちらも楽しめるイベントにしました。各売り場の担当者と、昨年この授業を履修した4年生のアドバイスを受けながら、チーム一丸となってイベントに臨んでいる姿を見ることができました。



幼稚園

「劇団しらかば」さんによる人形劇を観劇。わくわくドキドキでした。

2月26日、毎年子どもたちが楽しみにしている観劇会がありました。今年の演目は、劇団しらかばによる人形劇「ゆうかんな仕立て屋さん」というお話で、腕のいい町の仕立て屋さんが周りの人や王様の勘違いからいろいろなやりとりがあり、最後には町を荒らす大男を懲らしめ、王子として迎えられるサクセスストーリーでした。大きな人形がプロの方々の方々の巧みな操作でダイナミックに動く様子を、息を吞んで見入る子どもたちの姿が印象的でした。



高校

カナダ研修でお世話になっているハリーエインリー高校の教頭先生が本校を訪れました。

3月21日・22日、カナダのハリーエインリー高校から、クリスティーナ・ジョーンズ教頭先生が本校の視察に訪れました。3月21日は本校生が梅まつり案内ボランティア「TOKIWA UME AMBASSADOR」として借楽園を案内し、水戸徳川家や弘道館、借楽園の歴史を英語で説明しました。翌22日は本校の修了式に参列していただき、スピーチをしていただきました。午後はこれまでのカナダ研修に参加した生徒と再会し、近況報告を聞いて交流を深めました。2016年度のプログラムについても話し合い、無事帰国の途に就かれました。



高校

4月からの大学生活を前に短大 幼児教育保育学科 合格者によるピアノ発表会を開催しました。

2月20日、常磐短期大学幼児教育保育学科合格者によるピアノ発表会を、本校70周年記念講堂にて開催しました。発表者は、来場して下さった方々の温かい拍手に応援されながら、一生懸命演奏することができました。音楽Ⅲ選択者の合唱や合格体験談などもあり、1・2年生は先輩たちの発表を聴いて、受験への意識を強くしていたようです。また、常磐短期大学幼児教育保育学科の鈴木範之先生に講評やピアノのアドバイスをしていただき、生徒たちは真剣な表情で耳を傾け、4月からの新生活に夢と期待を膨らませていました。



大学

健康栄養学科の学生3人が公益社団法人 茨城県栄養士会による「ヘルシーメニューコンクール」で各賞を受賞。

このコンクールは、レストランや給食施設などで利用できる1品メニューを公募し、おいしく減塩かつ手軽に野菜がとれる主菜部門・副菜部門の2部門で審査を実施するもの。福地美里さん(3年)が「とろ甘!豚肉のレンコンおろし炒め」で主菜部門・優秀賞、和泉美穂さん(2年)が「ヨーグルトハニーサラダ」で副菜部門・最優秀賞、岸美里さん(2年)は「シャキシャキ野菜と豚しゃぶの生春巻き」で副菜部門・優秀賞に輝きました。3人は1月20日の「平成27年・茨城食育推進大会」で表彰され、「努力が報われた」と笑顔で語ってくれました。



智学館

学校まで23kmの道のりを踏破する第2回Walking Dayを開催しました。

2月13日、大洗駅に集合した全校生徒は、1年次生から5年次生までが混在するグループを組みました。先輩が後輩たちの様子を見ながらペースを考え、リーダーシップを育むための工夫です。今回は季節外れの陽気に恵まれ、昨年度よりも順調なペースで学校に帰還することができました。決して「楽しい」だけの行事ではありませんが、生徒たちのたくましさや涵養するとともに、5年前の震災のような非常時に「歩くか、留まるか」といった判断をする場面で必ずこの経験が生きることになります。



幼稚園

「なわとび大会」で今年もそれぞれが練習の成果を精一杯出しました。

2月9日に年長・年中児を対象になわとび大会を実施しました。昨年10月の運動会が過ぎた頃から少しずつ園庭で跳ぶ様子が見られ、寒さに負けずがんばってきた年長児たち。その姿に刺激を受け、年中・年少児の心にも意欲が湧いたことでしょう。いろいろな跳び方の発表の後、いよいよ記録に挑戦。当日、自己ベストを出したり、普段の成果が出せなかったりとさまざまでしたが、それぞれが自分の今持っている力を精一杯出し、やり終えた満足感に包まれた一日となりました。



智学館

1年次生を対象に「智学館流オリエンテーション」を行いました。

1年次生を対象に4月13日・14日の両日、智学館の一員としての心構えを作る智学館流オリエンテーションを行いました。初日の4月13日には2年次生と一緒に常磐大学を訪れ、図書館やメディアセンターを見学しました。午後には創立者諸澤みよ記念館を訪れ、常磐大学の建学の精神などを学び、また2年次生が1年次生に教える形で校歌の練習をしました。翌14日は山田校長から「世界的に変化が大きく速いこの時代に、豊かな人生を送るための実学を身に付けてほしい」と講話があり、みな真剣な面持ちで聞き入っていました。



高校

期待に胸膨らむ新入生に向け2016年度の部活動紹介を行いました。

4月13日、体育会系19団体、文科系15団体による部活動紹介が行われました。本校の部活動紹介は、新入生だけでなく全校生徒が体育館に集まって盛大に行うことが特徴です。これも学校全体で部活動を応援している証の一つです。生徒会役員によるさわやかな進行のもと、各部がテンポよく活動内容や成績について説明するのを見てみると、本校生の部活動にける熱意が伝わってきました。新入生も説明に聞き入っており、ここ数年高まりつつある本校の部活動加入率がさらに上がる予感がしました。



大学・短大

「夜・梅・祭」で「夜梅おみくじ」を販売。地域活性化のヒントを学びました。

3月12日、水戸の梅まつり実行委員会主催の「夜・梅・祭2016」に、常磐大学・常磐短期大学TSSボランティア TRICOLORに所属する学生たちが参加し、「夜梅おみくじ」を販売しました。今年も企画から制作まで学生たちが担当。5回目となる「夜梅おみくじ」は、水引を梅の形に編んだキーホルダー付きの、かなり手の込んだものになりました。苦勞の甲斐があつてか、販売開始直後から売場には長蛇の列。約3時間でおみくじは完売しました。参加した学生は「多くの人に喜んでいただくことが地域活性化につながる」と確かな手応えをつかんでいました。



大学

コミュニケーション学科の学生が「第14回読み聞かせコンクール」朗読部門で知事賞を受賞しました。

茨城県立図書館で行われた「第14回読み聞かせコンクール朗読部門」で、コミュニケーション学科3年の岡田彩花さんが一般の部で最優秀賞にあたる知事賞を受賞しました。読み聞かせコンクールは、読み聞かせ活動や朗読の普及などを目的とした「読み聞かせフェスティバル」の一環として行われています。「第14回読み聞かせコンクール」は2月6日に開かれ、中学生以下の部に18人、一般の部に36人の計54人が出場し、日ごろの練習の成果を発揮し、人の胸を打つ朗読を披露しました。



幼稚園

小学校に進学する年長さんに感謝の気持ちを込めておわかれ会を開きました。

3月2日、年中・年少組が、修了する年長組の子もたちを招待し、2015年度のおわかれ会を行いました。年中・年少児の輪の中に年長児が入り、ちょっぴり緊張した雰囲気でのスタートでしたが、歌や、触れ合いながらのゲーム・手遊びを行っていくうちに打ち解けた表情に変わりました。お楽しみの後に「年長さん、たくさん遊んでくれてありがとう」と手作りのプレゼントを渡すことができました。春からの小学校生活に向けて、素敵な思い出に残る一日となりました。



智学館

第3期生が晴れやかに卒業式を迎え思い出が詰まった学び舎を巣立ちました。

3月2日、第3期生の卒業証書授与式が執り行われました。6年間で大きく成長した卒業生たちは、新たなステージへ向けて歩みを進めます。高柳優花さんが在校生代表として送辞を務め、卒業生への感謝と、新たな智学館の伝統を創っていく決意を新たにしました。卒業生代表の下池辰司さんが答辞を務め、楽しく充実した智学館での日々と、新たな出発への決意を述べました。第3期生の皆さんには、感動的に歌い上げた校歌を胸に刻みつつ、グローバルな舞台上、臆することなくリーダーシップを発揮することを期待します。

Spotlight

地域や世界で力を試し、さまざまな活動を通して実践的に学ぶ。また、優れた研究成果を社会に発信する。こうした学内外で行われている活発な活動にスポットを当ててご紹介します。



インターンシップでは、子どもたちがちゃんと話を聞くように、先生方が声のかけ方にも工夫されていることを学びました。



よさこいは多くの出会いをくれました。茨城県青少年育成協会から表彰されたことも。



水泳部の活動を通して、いままでよりも粘り強くなったと思います。つらいことでもすくにあきらめずに取り組むようになったのは水泳と仲間のおかげです。



Spotlight
01
.....
輝く生徒

学業、水泳部、学外の活動に全力。 充実した高校生活を送っています。

河野 柚美 常磐大学高等学校3年

人との出会いが「よさこい」の魅力

よさこいを知ったのは、中学2年生の冬です。踊ってみたらとても楽しく、以来活動を続けています。よさこいの良いところは踊るときの一体感です。特に、イベントでは出場した全チームが、最後にステージで一斉に踊るのですが、周りの人もみんな仲間という雰囲気になって、その盛り上がりは格別です。私が所属するチームでは福祉施設への慰問などの活動もしています。たくさんの方から励ましの言葉をかけられ、皆さんが喜んでくれていることが伝わってきて、こちらも元気をいただいています。ある施設では高齢者の方から涙ながらに「ありがとう」と言っていたこともありました。活動を通して多くの人と交流できることがよさこいの魅力であり、もっと踊りをがんばろうと思う意欲にもつながっています。

ボランティアで見つけた将来の道

高校では水泳部に所属しています。中学時代の水泳部は、各自クラブでの活動が主だったので、1年中、仲間と一緒に練習できる楽しさを実感しました。つらいメニューでも励まし合って乗り越え、みんなで強くなることがができます。男女ともに県大会で優勝すること。そして、一人でも多く全国大会に出場することが今の目標です。以前、児童養護施設でボランティアに参加したとき、子どもたちが一人ひとり個性豊かで、その支援することにやりがいを感じました。2月には常磐大学幼稚園でのインターンシップも経験し、やはり私の関心は子どもにかかわることだと分かりました。今度の水泳の大会を終えたら、受験の準備をします。学んできたことをもとに、将来の道をしっかりと選びたいと思っています。



当日は2グループに分かれ、私たちは10組くらいの観光客にインタビューしました。どの国から来た人でも、英語ならば意思疎通できることがよく分かりました。



英語が上手に話せるようになりたくてEnglish部に入学しました。顧問のアニータ先生は、部活動だけでなく、授業で分からないところがあったときも質問に丁寧に答えてくださる、とても優しい方です。



「富士山はどれですか?」という質問は、全員が正解でした!

浅草で外国人観光客にインタビュー。 English部の日々の活動が生かしました。

智学館中等教育学校 English部 市村 玲華 3年次

質問を考え、フリップを作成して準備完了。

English部では、普段、単語力を高めるゲームをしたり、英語で映画を観たり、ワークシートや洋楽の歌詞の翻訳などの活動をしながら、いままで知らなかった単語や表現を楽しく学んでいます。今回は、日本を訪れている外国人観光客にインタビューすることを目的に、3月21日の振替休日を利用して、東京の浅草に行ってきました。事前の準備では、まず外国人観光客にどんな質問をするかを考えました。部員同士で話し合い、先生にもアドバイスをいただきながら内容を決めた後は、質問のフリップボードをつくり、分かりやすいように画像を貼るなどの工夫をしました。用意した質問は5つで、中でも「日本の食べ物を知っていますか」という質問は反応が良く、たこ焼きを食べたことがある人が多いことに驚きました。

国や言葉が違って通じることを実感。

苦労したのは外国人の方に話しかけるタイミングです。最初はなかなか話しかけられなかったのですが、部員全員で前もって質問を練習したので、一度話し始めれば、質問も、答えの聞き取りもスムーズにできたと思います。お礼に差し上げた日本の食べ物の消しゴムも好評でした。外国人の方々が笑顔で優しく対応してくれたこともうれしく、国や言葉が違ってコミュニケーションできるという自信になりました。街頭でのインタビューを経験したことで、以前より英語を使うことを意識するようになり、また、入学当初よりも英語の自学時間が増えました。もし、次回インタビューすることがあれば、日本のどのところが好きかなど、もっとたくさんの質問をして、会話を楽しみたいと思います。

常磐大学の教員が執筆した さまざまな分野の著書をご紹介します。



- ① 給食施設のための献立作成マニュアル 第9版
- ② 富田 教代
人間科学部 教授
- ③ 富田教代 著者代表
- ④ 2016年3月
- ⑤ 医歯薬出版

給食管理業務は、栄養学をはじめとした食品、衛生、調理、経済、心理学等が組み合わせてできる「献立」を中心として展開されます。本書は献立作成の方法を重点的に解説しています。



- ① エssenシャル 給食経営管理論
一給食のトータルマネジメント—第4版
- ② 富田 教代
人間科学部 教授
- ③ 富岡和夫・富田教代 編
- ④ 2016年3月
- ⑤ 医歯薬出版

「管理栄養士国家試験出題基準」に沿った教科書として作成したものです。特に経営管理に力点を置き、高度な技術と経営を統合した管理栄養士を目標に内容を展開しています。



- ① 世界の名前
- ② 石野 裕子
キャリア教育学科 准教授
- ③ 岩波書店辞典編集部 編
- ④ 2016年3月
- ⑤ 岩波書店

本書は世界の100の国や地域、言語、時代、そして神話や文学作品に出てくる名前まつわるエッセイ集です。「アイノの日」というカレワラ神話に関するエッセイを書きました。

★ 常磐大学&水戸ホーリーホック
コラボデー2016 8/21(日)



大学・短大

★ オープンキャンパス 7/30(土)・8/7(日)

★ ときわ祭 10/22(土)・23(日)

※同日で入試相談を実施

★ TOKIWA高校生英語プレゼンテーションコンテスト
..... 10/22(土)

高校

★ オープンスクール 7/27(水)～30(土)

★ 体験入部 8/19(金)

★ クラスマッチ 9/8(木)・9(金)

智学館

★ 学習合宿 7/4(月)～7(木)

★ オープンスクール 8/21(日)

★ 海外研修旅行(4年次) ... 10/13(木)～21(金)

幼稚園

★ 育児に役立つ勉強会 7/13(水)

★ 入園説明会
..... 7/12(火)・9/23(金)・10/14(金)

★ 運動会 10/8(土) ※雨天時10/9(日)

アンケートご協力をお願い

- ① 印象に残った記事とその理由など
- ② 今後、広報誌で取り上げてほしいテーマなど

皆さまからのご意見・ご感想をお寄せください。
※名前、住所、本学との関係(在籍者の場合、所属する学校名)も併せてご記載ください。

kikaku@tokiwa.ac.jp

〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1

★お寄せいただいた方の中から、抽選で20名様に常磐大学オリジナルグッズを差し上げます。



寄付者ご芳名

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。(敬称略)
[2016年1月～4月受け付け分]

■ 諸澤幸雄奨学金制度の創設・充実

団 体	
500,000円	常磐大学2015年度卒業生一同
250,000円	常磐短期大学2015年度卒業生一同
10,000円	短歌の会かりん水戸支部*
芳名のみ公表	(株)MIKUNIカンパニー*
個 人	
500,000円	森 征一*
100,000円	後藤 克彦
77,777円	匿名*
30,000円	小柳 武*、富田 恭平*
15,000円	中村 和彦*
4,000円	坂井 知志*
芳名のみ公表	江原 麻子*、菅野 弘久*、齋藤 祐輔*、 関 いつみ*、田邊 正*、久松 雄大*、横山 正和*、村中 均*
累計金額 95,645,208円	

■ その他の寄付

個 人	
10,000円	小柳 武、富田 恭平
5,000円	中村 和彦
芳名のみ公表	関 いつみ、久松 雄大、横山 正和
累計金額 45,000円	

■ 医学的・制度的に不確実な認知症理解のための研究

300,000円	田中一夫
----------	------

■ 持続可能社会に向けた地域の環境づくり活動資金(2016年度事業分)

1,000,000円	(株)常陽銀行*
------------	----------

■ 社会福祉士を目指す学生への支援(2016年度事業分)

1,600,000円	一般財団法人 安寿苑*
------------	-------------

●複数回お申し込みくださいました方は芳名に*を付しました。

■ 寄付のお願い

諸澤幸雄奨学金募金へ寄付を賜り、誠にありがとうございます。
本学では、諸澤幸雄奨学金制度を創設し、その充実および継続的運営を目的に2009年11月から募金を開始しました。この間、多くの皆さまよりご寄付を賜りました。重ねて御礼申し上げます。本学では、引き続き募金の受け付けをまいります。ぜひとも募金の趣旨をご理解いただき、ご寄付を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。
また、2016年度より見和キャンパス開設50年施設整備事業に取り組むこととし、新たに募金活動を実施いたします。皆さまのご協力をお願い申し上げます。

★寄付金のお申し込みおよびお問い合わせ

学校法人常磐大学 会計経理課 寄付係

tel: 029-232-2554 e-mail: kifu@tokiwa.ac.jp

※寄付募集の詳細については、ホームページでご覧いただけます。

諸澤幸雄奨学金
奨学生決定のお知らせ

2016年2月に開催した諸澤幸雄奨学金奨学生決定通知書授与式について、以下のとおりご報告いたします。

- 高等学校 ... I 種奨学生5名
- 中等教育学校 ... I 種奨学生2名
- ... II 種奨学生1名

